

教職課程質保証評価の構築

—全私教協会員校における資料調査と訪問調査をもとに—

一社）全国私立大学教職課程協会

常任理事 森山賢一（玉川大学大学院教育学研究科教授）

1 研究の背景

報告書3-4頁

平成30年度：文部科学省委託研究「私立大学における教職課程質保証に関する基礎的研究」

- ・私立大学における教職課程の質保証の在り方に関する調査 348校/420校

令和元年度：文部科学省委託研究「私立大学における教職課程質保証の在り方に関する研究」

- ・自己点検・評価を行っているとは回答した12大学の自己点検・評価基準の分析
- ・自己点検・評価を行っているとは回答した8大学の訪問調査

⇒それらの知見を踏まえ「『教職課程 自己点検・評価報告書』作成の手引き」作成

2 教職課程 自己点検・評価の基本的な考え方、進め方

(1) 自己点検・評価の目的

自己点検・評価は、本来、大学が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目的に照らして自らの教育活動等の状況について自己点検し、現状を的確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行うこと

(学校教育法第109条第1項、学校教育法施行規則第166条)

(2) 教職課程 自己点検・評価の進め方

教職課程を対象とした自己点検・評価について今日まで定型的な実施手順は存在しません。

各大学の規模・地理的条件（例えば、各学部分散型）、教職課程の種類・性格（例えば、開放制、養成系）に応じて大学固有の実施手順を確立し、これを誠意ある公正な姿勢で進めることが求められる。

各学部の教職課程の運営を統括する全学的な組織として「教職課程支援センター」などを設置している大学において自己点検・評価を実施する場合を例に、いくつかのプロセスを踏まえて進めることとする。

3 『教職課程 自己点検・評価報告書』作成の観点 50頁

- (1) 自己点検・評価の内容
- (2) 自己点検・評価報告書の構成及び様式
- (3) 教職課程の現況及び特色
- (4) 基準領域ごとの自己点検・評価の記述方法
- (5) 基準領域・基準項目・取り組みの観点例
- (6) 自己点検・評価に関する資料、データ等のリスト
- (7) 「教職課程 自己点検・評価報告書」作成のプロセスの記述
- (8) 「現況基礎データ票」の作成

自己点検・評価を実施する場合のプロセス 52-54頁

- 【第1プロセス：教職課程支援センターによる自己点検・評価の決定・合意】
- 【第2プロセス：教職課程支援センターによる法令由来事項の点検と各教職課程へのデータ等の扱いについての意見聴取】
- 【第3プロセス：各教職課程による自己点検・評価の進め方の検討・協議】
- 【第4プロセス：教職課程支援センターと各学部教職課程との実施手順の最終調整】
- 【第5プロセス：教職課程の自己点検・評価のための対象項目についての点検・評価活動の実施】
- 【第6プロセス：教職課程を対象とする自己点検・評価報告書の確定・公表】
- 【第7プロセス：自己点検・評価報告書を基礎とした教職課程に関わる新たなアクション・プランの策定】

4 全国私立大学教職課程協会 「教職課程 自己点検・評価基準」 63頁

(1) 全国私立大学教職課程協会の自己点検・評価基準は、開放制・多様性等様々な組織形態を有する私立大学における教職課程に対して、実施可能で、なお公正かつ質の保証、向上に資する評価の在り方を明らかにすることを目的として作成されています。

自己点検・評価基準自体は大綱的かつ汎用的であり、各大学の主体的・自律的な取り組みにかなうことを旨としています。

(2) 自己点検・評価基準は、下記の三つの基準領域に即して六つの基準項目を設定

〔基準領域 1〕 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔基準領域 2〕 学生の確保・指導・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔基準領域 3〕 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

63頁

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

- ① 目的・目標、育成を目指す教員像について教職課程に関わる教職員が共通理解をしている。
- ② 教職課程教育を通して育まれるべき学修成果（ラーニング・アウトカム）が具体的に示されている。
- ③ 教職課程教育の目的・目標を学生に周知している。

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

- ① 研究者教員と学校現場での優れた実践的経験を有する教員との協働体制を構築している。
- ② 教職課程の運営に関して全学組織（教職課程支援センターなど）と学部（学科）の教職課程で意思疎通を図っている。
- ③ 教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために組織的に機能している。
- ④ 教職課程の質的向上のためにFDやSDの取り組みを展開している。
- ⑤ 教職課程に関わる情報公開を行っている。
- ⑥ 教職課程教育を行う上での施設・設備が適切に整備されている。

基準領域 2 学生の確保・指導・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

- ① 教職を担うにふさわしい学生を受け入れる履修上の基準を設定している。
- ② 教職を担うにふさわしい学生の募集・選考等を実施している。 ③ 当該教職課程に即した適切な数の履修学生を受け入れている。

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

- ① 学生の教職に対する意欲や適性を把握している。
- ② 学生のニーズの把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。
- ③ 学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を行っている。
- ④ 教職入職に関する各種情報を適切に提供している。
- ⑤ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。
- ⑥ 教職に就いている卒業生との協力体制を図っている。

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

- ① 教職課程科目に限らず、卒業単位 124 単位を活用して、建学の精神等、開放制の教員養成を行う大学としての特色ある独自性のある教員養成を行っている。
- ② 学科等の目的を踏まえ、「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の確保を図っている。
- ③ 学校や社会のニーズ、政策課題（例えば、教員育成指標参照）に対応した教育内容の工夫がなされている。
- ④ 学生自身によるアクティブ・ラーニングを促す工夫に取り組んでいる。
- ⑤ 学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場を設定している。
- ⑥ コアカリキュラムに対応した教職課程のカリキュラムを提供している。
- ⑦ 「教職実践演習」の運用上の適切性、「履修カルテ」の活用上の工夫を図っている。
- ⑧ 本来の対面授業のほかに、遠隔操作による授業（オンライン、オンデマンドなど）の工夫も取り入れている。

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

- ① 教育の実際場面に学生が触れるフィールドを提供している。
- ② 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する場を設定している。
- ③ 様々な体験活動（ボランティア、インターンシップ、介護等体験等）とその省察による 往還の機会を提供している。
- ④ 様々な子どもの発達段階に関する教育実践的な情報を提供している。
- ⑤ 教育委員会との組織的な連携協力体制を構築している。
- ⑥ 教育実習の指定校（協力校）との連携を図っている。
- ⑦ 教育実習に臨む上での必要な履修要件を設定している。

5 『教職課程 自己点検・評価報告書』作成の手引き」

- 以上の研究を踏まえ、当協会会員校ほか開放制をとる教職課程において、教職課程自己点検・評価を実施し、これを客観的に取りまとめることを可能とする手引書を作成した。
- 報告書49-62頁を参照願いたい。

6 本委託研究の到達点と今後の課題

73-76頁

・ 本委託研究の到達点

- 1 教職課程に関する自己点検・評価が、大学評価の一環として行われている現状を資料調査から明らかにした。
- 2 資料調査、実地の訪問調査の積み重ねにより、開放制の教職課程に適した「教職課程自己点検・評価基準」をとりまとめた。
- 3 的確な評価基準・項目の準備と評価の具体的な方法の提示があれば、教職課程の自己点検・評価は制度的な実施が可能と判断し、大学における自己点検・評価を行う場合の手引き書として、『教職課程 自己点検・評価報告書』作成の手引き」を完成させた。

・ 今後の課題

- ・ 自己点検・評価の内容・方法に関して、試行を重ねてさらに実施段階の完成度の高いものとする。
- ・ 各大学の自己点検・評価を支援する当協会の組織体制の確立を行う。

委託研究の体制

- 代表者 小原 芳明（玉川大学長）
- 実施責任者 森山 賢一（玉川大学）
- 委員 牛渡 淳（仙台白百合女子大学） 滝沢 和彦（大正大学）
田子 健（東京薬科大学） 田中 保和（大阪人間科学大学長）
町田 健一（前・北陸学院大学長） 八尾坂 修（開智国際大学）
横田 雅史（帝京平成大学）
- 研究協力者 佐藤 手織（八戸工科大学） 古谷 次郎（北星学園大学）
三尾 真琴（帝京科学大学）ほか研究委員会委員
- 幹事 高橋 正彦（玉川大学） 須甲 理生（日本女子体育大学）

ご清聴有難うございました。

一般社団法人全国私立大学教職課程協会

会長 小原芳明（玉川大学学長）
副会長 大西晴樹（東北学院大学学長）
町田健一（前北陸学院大学学長）
専務理事 田子 健（東京薬科大学）
常任理事 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
田中保和（大阪人間科学大学学長）
滝沢和彦（大正大学）
森山賢一（玉川大学）
理事 全国8地区から選出10名
監事 斎藤利彦（学習院大学）

◆加盟大学 正会員大学 405校
準会員大学 19校
特別会員大学 2校
合計 426校（令和2年11月20日現在）